

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査

【調査概要】

調査種類	介護予防・日常生活圏域ニーズ調査
対象者	三田市内に住む高齢者 3,300 人 (要介護認定を受けていない方、及び要支援 1・2の方から無作為抽出)
実施期間	令和 8 年 1 月 21 日 (水) から令和 8 年 2 月 12 日 (木)
実施方法	郵送配布、郵送回収または WEB 回収 (回収率向上のための礼状兼督促はがきを実施)
回収状況	配 布 数 : 3,300 件 有効回収数 : 2,414 件 (郵送 : 2,075 件、WEB : 339 件) 有効回答率 : 73.2%

【総括】

1. 高齢者の状況

【調査結果】

- ・ 家族構成・居住状況について、全体では「夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳以上)」が 46.5%で最多ですが、「一人暮らし」も 17.3%存在します。特に女性の後期高齢者や、総合事業対象者・要支援認定者において「一人暮らし」の割合が高くなっています。
- ・ 介護・健康の不安について、83.6%は現在介護を必要としていませんが、日々の不安ごととして「健康に関すること」を挙げる人が 49.3%と最も多く、前回調査から 9.6 ポイント増加しています。
- ・ 介護が必要になった場合の希望について、約 68.3%が「自宅で暮らしたい」と希望する一方で、食事やトイレなどの身の回りのことができなくなった場合には、56.1%が「介護施設に入所したい」と回答しています。
- ・ 認知症の人との関わりについて、自身や家族に認知症の症状がある人は 10.5%です。また、認知症のイメージについて身の回りのことができなくなるため施設入所が必要になると考える人が 68.7%いるなど、進行への不安がうかがえます。

【課題】

- ・ 女性の後期高齢者や要支援者等を中心に一人暮らし世帯が多く、在宅生活を支えるための日常的な見守りや生活支援サービスの拡充が求められます。
- ・ 重度化した場合の「施設入所」ニーズにも対応しつつ、ニーズの多い「在宅生活」希望に応じるための介護サービス体制の構築が必要です。

2. 人づきあい

【調査結果】

- ・ 孤食の状況について、「毎日（誰かと共食する機会が）ある」が 61.4%を占める一方、「年に何度かある」「ほとんどない」を合わせた“孤食傾向”の方が 16.0%存在します。
- ・ 相互支援（たすけあい）について、愚痴を聞いたり看病をし合う 4 つの項目の合計点について、74.4%が満点（4 点）となっています。しかし、一人暮らしの方や、自身の幸福感が低い方ほど、たすけあいの点数が低くなる（0～2 点が多くなる）傾向が見られます。
- ・ 家族・友人以外の相談相手について、何かあったときの相談相手について、「そのような人はいない」という回答が 39.9%で最多となっており、特に男性の前期高齢者でこの割合が高くなっています。
- ・ 地域包括支援センターの認知度について、「利用している（利用したことがある）」「知っているが、利用したことはない」を合わせた“知っている方”は 63.9%となる一方、男性の前期高齢者の“知っている方”は 50.8%と低くなっています。

【課題】

- ・ 一人暮らしや幸福感が低い層を中心に、周囲と助け合える関係性が希薄化・孤立化している懸念があるため、共食の機会を提供する場づくり、自然な見守りができる関係性づくりが必要です。
- ・ 家族以外に相談相手を持たない高齢者（特に前期高齢の男性）が孤立しないよう、地域包括支援センターなどの相談窓口の周知や、専門職へつながるようにすることが重要です。

3. 地域活動

【調査結果】

- ・ 活動への参加状況について、「町内会・自治会」への参加が 38.7%で最も多く、「趣味関係のグループ」や「収入のある仕事」も 3 割を超えています。「学習・教養サークル」や「老人クラブ」の参加率は 11.5%と低めです。
- ・ 就労状況について、「引退した」が 47.6%で最多ですが、「非常勤（パート・アルバイト等）」として働いている人も 17.9%存在します。
- ・ 属性による違いについて、男性の前期高齢者は「収入のある仕事」への参加が多く、女性の後期高齢者や要支援認定者は「介護予防のための通いの場」への参加が多くなっています。

【課題】

- ・ 高齢者のニーズや価値観の変化に合わせ、多様な趣味や志向に応じた社会参加の機会を創出することが求められます。
- ・ 意欲のある前期高齢者などが、ボランティアや就労などを通じて地域を支える側として活躍し続けられるような、多様な社会参加の仕組みづくりが重要です。

4. 虚弱リスク

【調査結果】

- 外出の状況について、20.4%の人が外出を控えており、特に要支援者や総合事業対象者でその傾向が強くなっています。
- 外出を控える理由について、「足腰などの痛み」が 53.5%と圧倒的に多く、次いで「交通手段がない」21.7%となっています。
- 介護・介助が必要になった原因について、「高齢による衰弱」21.4%や「骨折・転倒」17.2%が上位を占めており、特に女性の後期高齢者では骨折・転倒が多くなっています。

【課題】

- 足腰などの痛みや骨折・転倒が、介護・介助が必要になった要因の1つであるため、運動器の機能低下を防ぐ介護予防プログラム（体操教室など）への参加促進や早期介入が必要とされます。
- 「交通手段がない」ことを理由に閉じこもりがちになる高齢者への対策として、高齢者の実態に即した移動支援策が必要です。

調査結果抜粋

留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっています。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数です。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。このため、百分率の合計が 100.0%とならない場合があります。
3. 複数回答の場合、図中に MA (Multiple Answer) と記載しています。
4. 各種リスク判定の「非該当」には判定不能の場合も含まれます。
5. クロス集計表中の網掛けは、回答割合が最も高い項目が最も濃く、二番目に多い割合の項目を薄くしています。
6. クロス集計表中の「△」は、「全体」の回答割合より 10 ポイントを上回ること、「▼」は「全体」の回答割合より 10 ポイント下回ることを表します。

家族構成

●問1 家族構成をお教えてください。(1つだけ)(本編P.4)

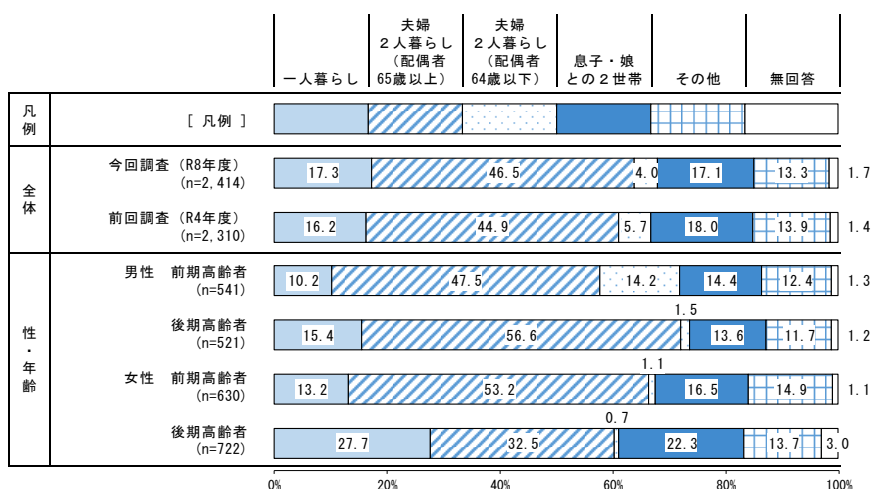
【全体】

- 家族構成について、「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が46.5%で最も多く、次いで「一人暮らし」が17.3%、「息子・娘との2世帯」が17.1%となっています。

【性・年齢】

- 男性の前期高齢者は「夫婦2人暮らし(配偶者64歳以下)」が他の区分に比べて多くなっています。男性の後期高齢者は「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が他の区分に比べて多くなっています。女性の後期高齢者は「一人暮らし」が他の区分に比べて多くなっています。

【家族構成】



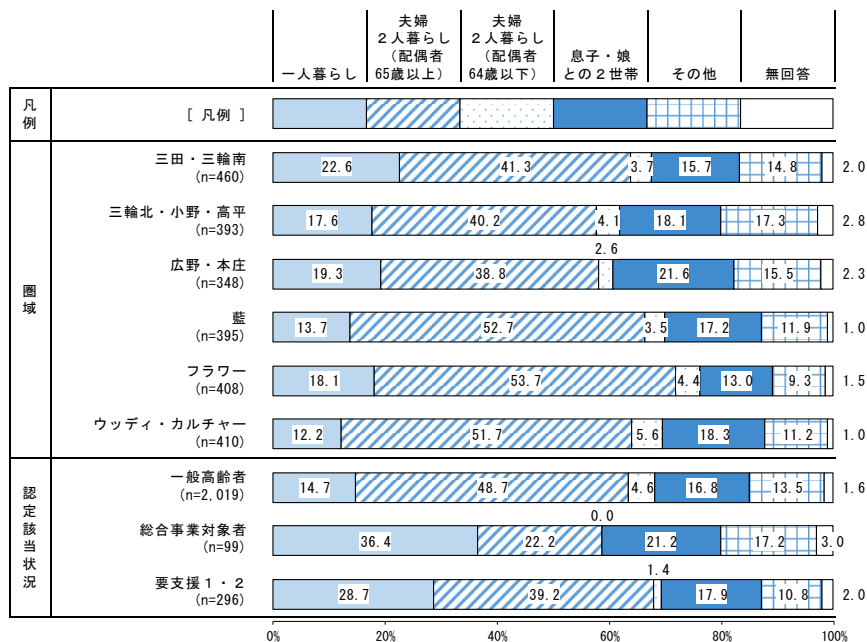
【圏域】

- 三田・三輪南は「一人暮らし」が他の圏域に比べて多くなっています。藍、フラワー、ウッディ・カルチャーは「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が他の圏域に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

- 一般高齢者では「夫婦2人暮らし(配偶者65歳以上)」が他の区分に比べて多く、要支援1・2では「一人暮らし」が他の区分に比べて多くなっています。

【家族構成】



介護・介助の必要性

- 問2 あなたは、普段の生活でどなたかの介護・介助が必要ですか。（1つだけ）
（本編P.6）

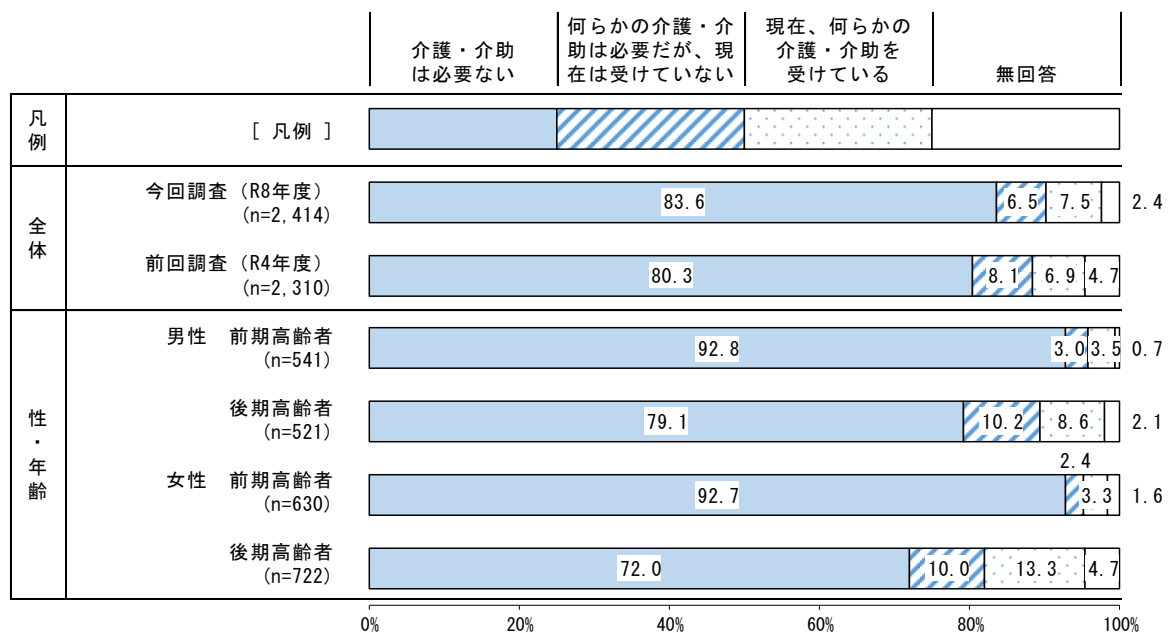
【全体】

- 介護・介助の必要性について、「介護・介助は必要ない」が83.6%で最も多く、次いで「現在、何らかの介護・介助を受けている」が7.5%、「何らかの介護・介助は必要だが、現在は受けていない」が6.5%となっています。

【性・年齢】

- 男女とも前期高齢者は「介護・介助は必要ない」が他の区分に比べて多くなっています。女性の後期高齢者は「現在、何らかの介護・介助を受けている」が他の区分に比べて多くなっています。

【介護・介助の必要性】



●問2で「2」または「3」と答えた方（介護・介助が必要な方）のみ、お答えください。

問3 介護・介助が必要になった主な原因は何ですか。（いくつでも）（本編P. 8）

【全体】

- 介護・介助が必要になった主な原因について、「高齢による衰弱」が21.4%で最も多く、次いで「その他」が17.8%、「骨折・転倒」が17.2%となっています。

【性】

- 男性では「高齢による衰弱」が24.1%で最も多く、ついで、「心臓病」が16.5%、「糖尿病」が15.0%となっています。
- 女性では「骨折・転倒」が21.4%で最も多く、「その他」が20.1%、「高齢による衰弱」が19.6%となっています。

全体	原因（MA）	割合
1	高齢による衰弱	21.4
2	その他	17.8
3	骨折・転倒	17.2

(n=347)

男性	原因（MA）	割合
1	高齢による衰弱	24.1
2	心臓病	16.5
3	糖尿病	15.0

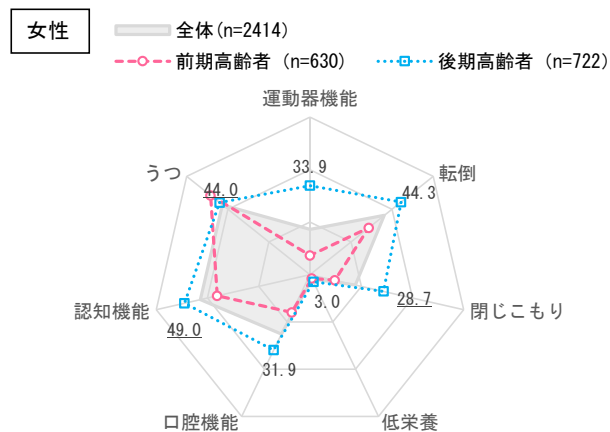
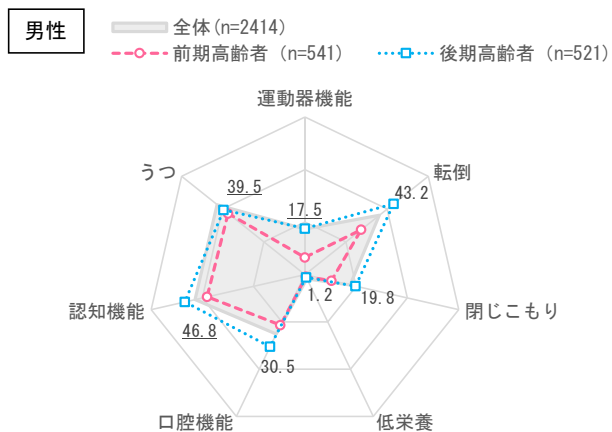
(n=134)

女性	原因（MA）	割合
1	骨折・転倒	21.4
2	その他	20.1
3	高齢による衰弱	19.6

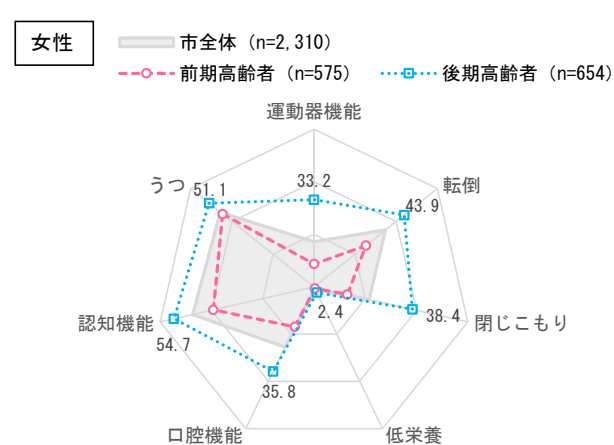
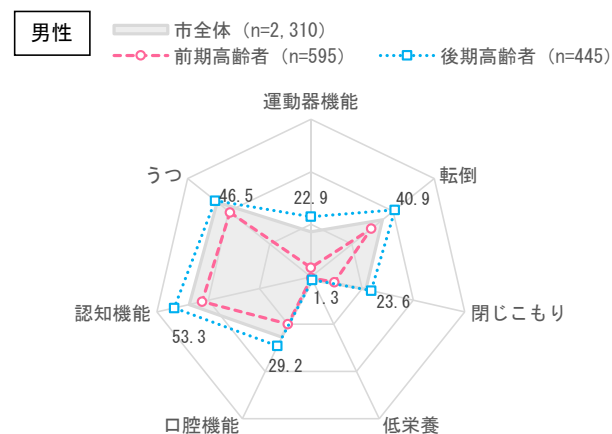
(n=206)

【生活機能の低下リスク該当者】

【今回調査（R7 年度）】



【前回調査（R4 年度）】



※後期高齢者の数値のみグラフに表示しています。

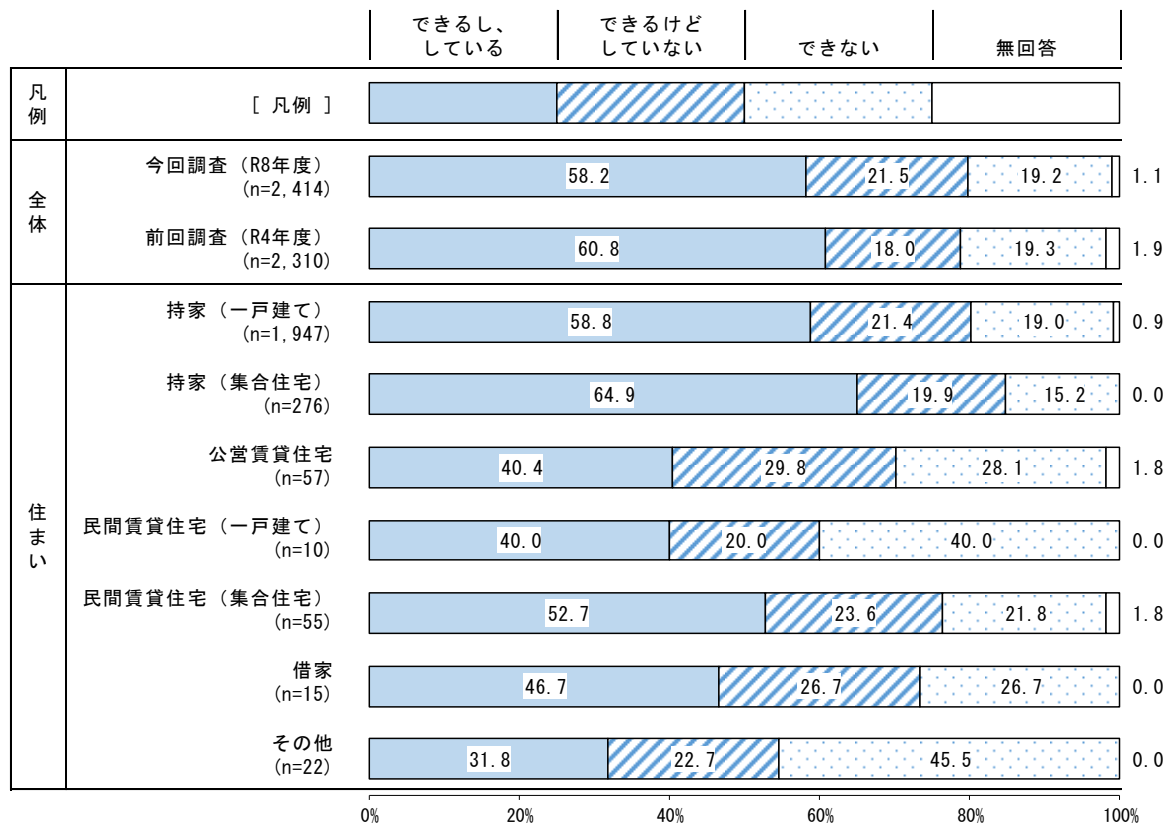
※前回調査と比べて5ポイント以上の差がある数値に下線を付けています。

●問7 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか。(1つだけ)(本編P.15)

【全体】

- 階段を手すりや壁をつたわずに昇っているかについて、「できるし、している」が58.2%で最も多く、次いで「できるけどしていない」が21.5%、「できない」が19.2%となっています。

【階段を手すりや壁をつたわずに昇っているか】



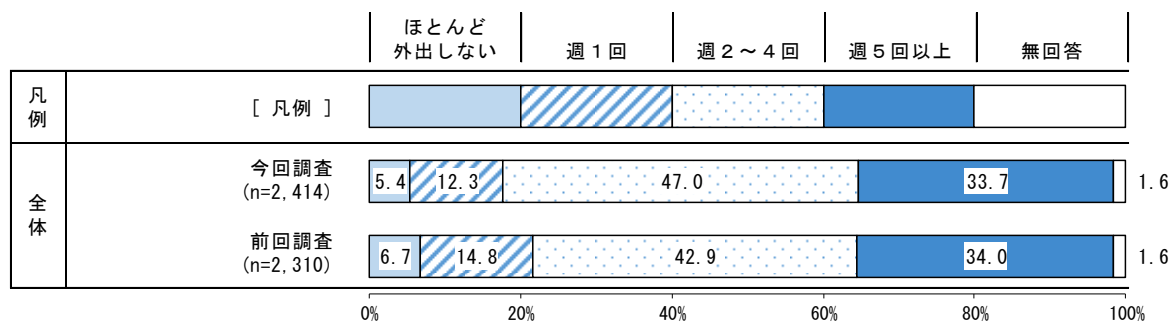
外出の状況

●問12 週に1回以上は外出していますか。(1つだけ)(本編P.21)

【全体】

○ 外出頻度について、「週2～4回」が47.0%で最も多く、次いで「週5回以上」が33.7%、「週1回」が12.3%となっています。

【外出頻度】



【外出の際の移動手段別 外出頻度】

単位：%

		母数	ほとんど 外出しない	週 1 回	週 2 ～ 4 回	週 5 回 以上	無 回 答
全体		2,414	5.4	12.3	47.0	33.7	1.6
外出 の際 の 移 動 手 段	徒歩	1,280	4.0	9.2	47.5	39.0	0.3
	自転車	281	2.5	9.6	43.1	△ 44.5	0.4
	バイク	74	-	6.8	37.8	△ 55.4	-
	自動車(自分で運転)	1,435	1.1	7.7	47.7	43.3	0.2
	自動車(人に乗せてもらう)	651	10.4	19.7	50.8	▼ 18.6	0.5
	電車	728	2.6	7.6	48.9	40.7	0.3
	路線バス	657	3.3	10.7	51.0	34.7	0.3
	病院や施設のバス	38	7.9	△ 28.9	42.1	▼ 21.1	-
	車いす	6	△ 66.7	16.7	▼ 16.7	-	-
	電動車いす(カート)	9	△ 22.2	△ 44.4	▼ 33.3	-	-
	歩行器・シルバーカー	30	△ 33.3	△ 23.3	▼ 33.3	▼ 10.0	-
	タクシー	238	△ 15.5	21.0	46.2	▼ 17.2	-
	その他	13	△ 15.4	△ 23.1	38.5	▼ 23.1	-

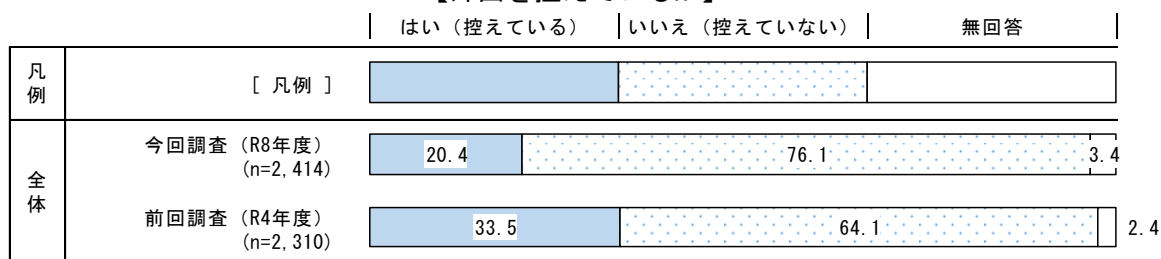
外出を控えているか

●問14 外出を控えていますか。(1つだけ)(本編P.25)

【全体】

- 外出を控えているかについて、「はい（控えている）」が 20.4%、「いいえ（控えていない）」が 76.1%となっています。
- 前回調査と比べて、「いいえ（控えていない）」が 12.0 ポイント多く、「はい（控えている）」が 13.1 ポイント少なくなっています。

【外出を控えているか】



●問14で「1」と答えた方（外出を控えている方）のみ、お答えください。

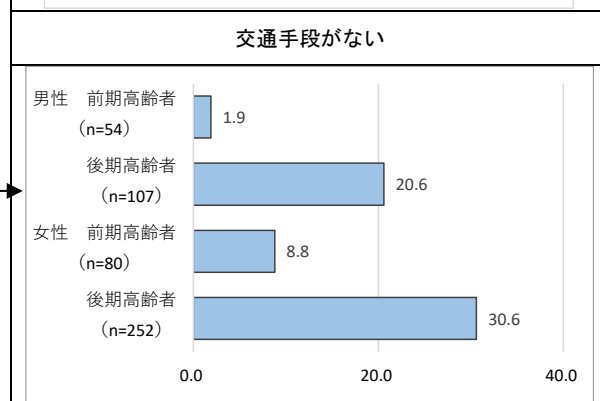
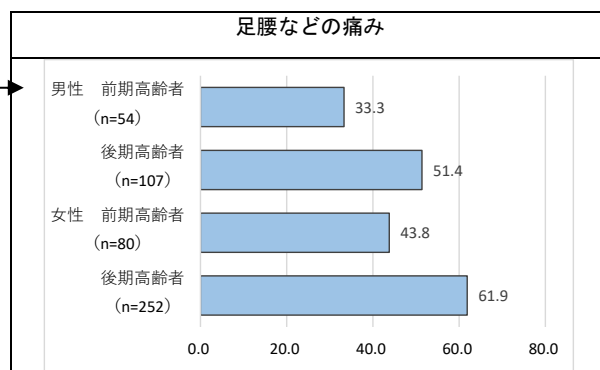
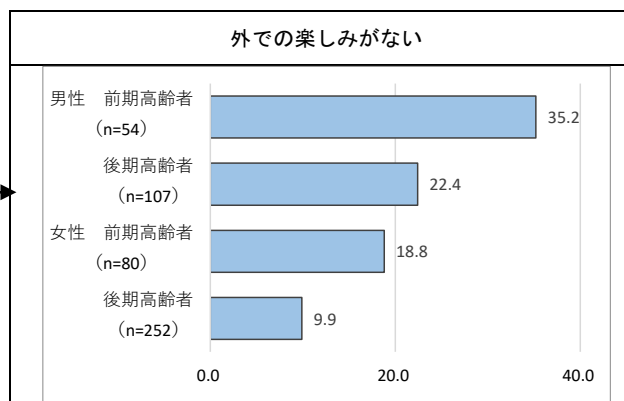
問15 外出を控えている理由は、次のどれですか。(いくつでも)(本編P.26)

【全体】

- 外出を控えている理由について、「足腰などの痛み」が 53.5%で最も多く、次いで「交通手段がない」が 21.7%、「外での楽しみがない」「その他」が 16.8%、「トイレの心配（失禁など）」が 16.4%となっています。

全体	控えている理由（MA）	割合
1	足腰などの痛み	53.5
2	交通手段がない	21.7
3	外での楽しみがない	16.8
3	その他	16.8
5	トイレの心配（失禁など）	16.4

(n= 493)



孤食の状況

●問26 どなたかと食事をとにもする機会がありますか。(1つだけ)(本編P.43)

【全体】

- 共食の有無について、「毎日ある」が61.4%で最も多く、次いで「月に何度かある」が12.2%、「年に何度かある」が9.5%となっています。「年に何度かある」「ほとんどない」を合わせた“孤食傾向の方”は16.0%となっています。

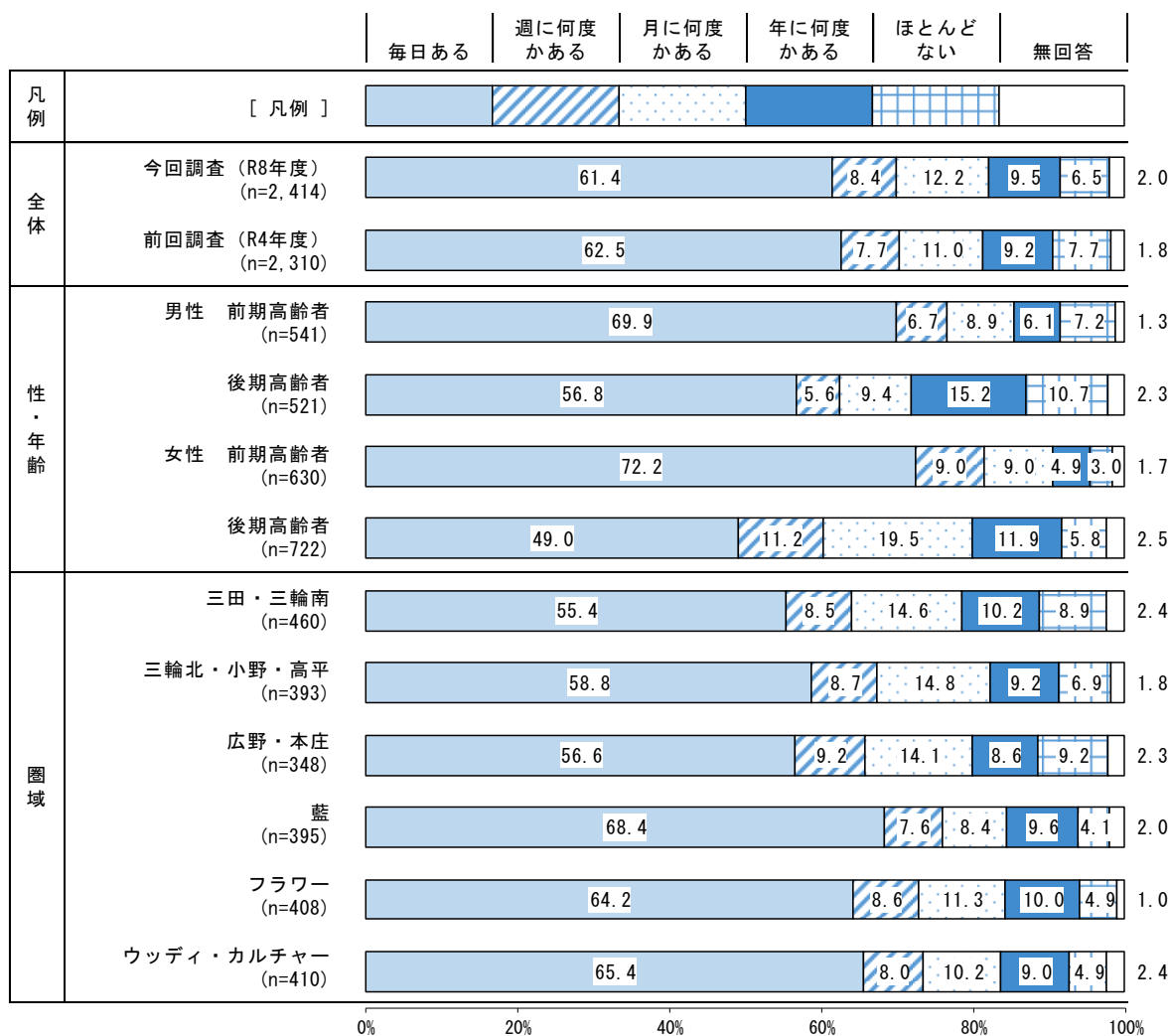
【性・年齢】

- 女性の前期高齢者は「毎日ある」が72.2%と他の区分に比べて多くなっています。

【圏域】

- 藍は「毎日ある」が他の圏域に比べて多くなっています。

【共食の有無】



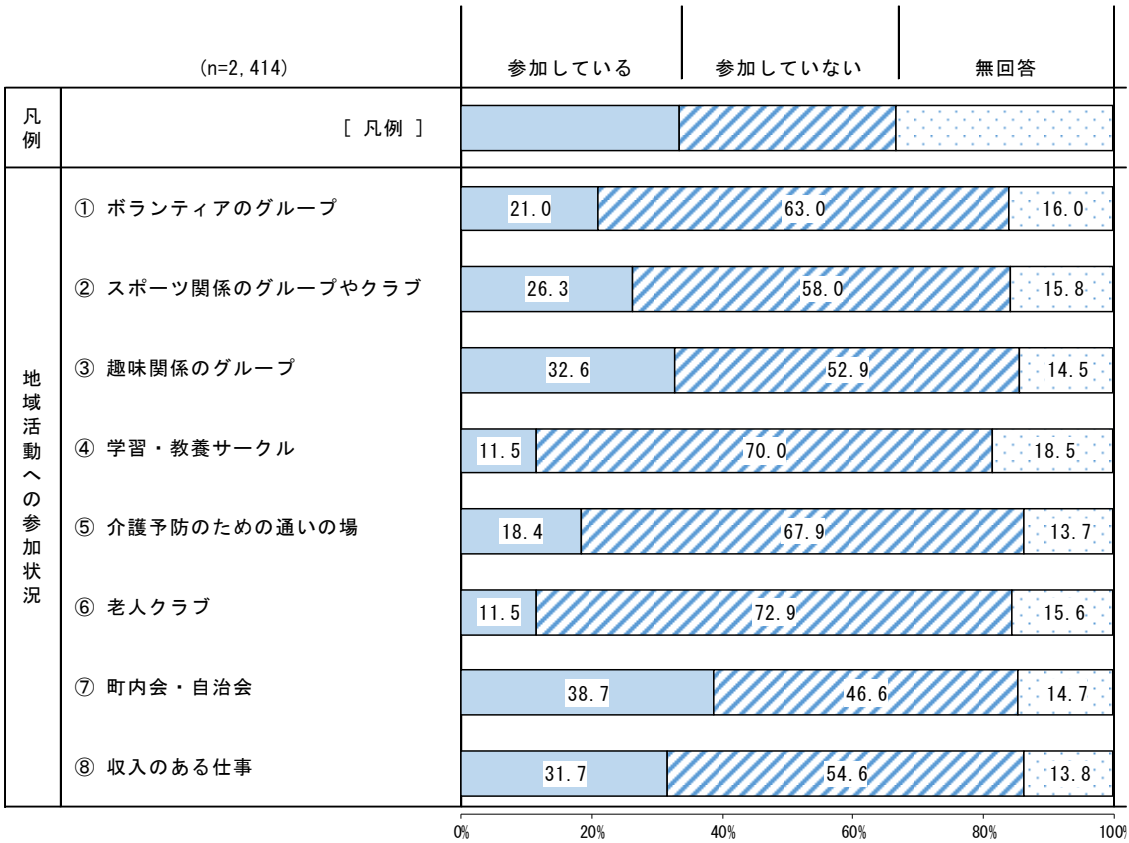
(1) 地域活動への参加状況

●問42 以下のような会・グループ等にどれくらいの頻度で参加していますか。

(①～⑧それぞれ1つ)(本編P.69)

【全体】

- 地域活動への参加状況について、「参加している」が最も多い項目は「⑦ 町内会・自治会」で38.7%、最も低い項目は「④ 学習・教養サークル」と「⑥ 老人クラブ」で11.5%となっています。「参加している」が3割を超えている項目は他に「③ 趣味関係のグループ」「⑧ 収入のある仕事」となっています。



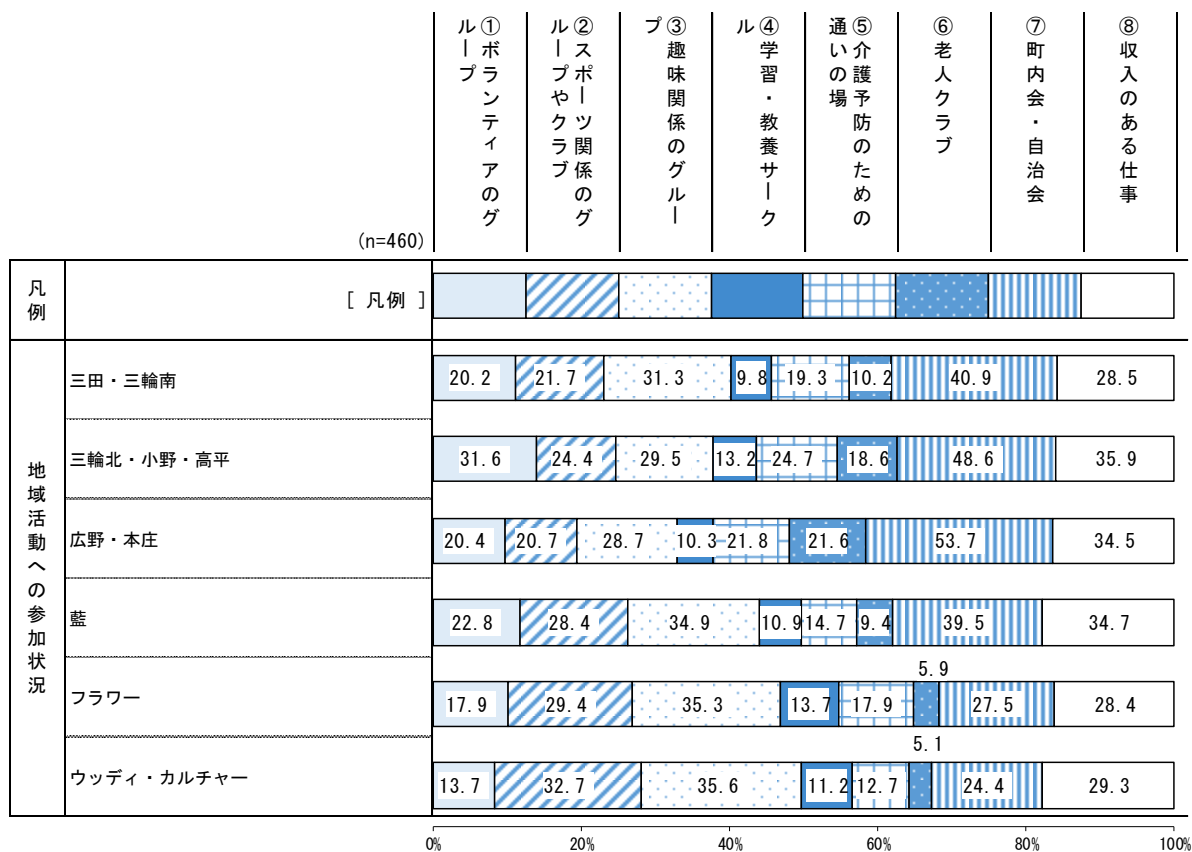
【各地域活動に参加している人】

【性・年齢】

- 男性の前期高齢者は「⑧ 収入のある仕事」が他の区分に比べて多くなっています。女性の後期高齢者は「⑤ 介護予防のための通いの場」が他の区分に比べて多くなっています。

【圏域】

- 三輪北・小野・高平は「① ボランティアのグループ」が他の圏域に比べて多くなっています。広野・本庄は「⑥ 老人クラブ」「⑦ 町内会・自治会」が他の圏域に比べて多くなっています。



(3) 就労状態

●問45 現在のあなたの就労状態はどれですか。(いくつでも) (本編P.73)

【全体】

- 就労状態について、「引退した」が47.6%で最も多く、次いで「非常勤（パート・アルバイト等）」が17.9%、「その他」が9.4%となっています。

【性・年齢】

- 男性の前期高齢者は「常勤（フルタイム）」が他の区分に比べて多くなっています。男性の後期高齢者は「引退した」が他の区分に比べて多くなっています。女性の前期高齢者は「非常勤（パート・アルバイト等）」が他の区分に比べて多くなっています。

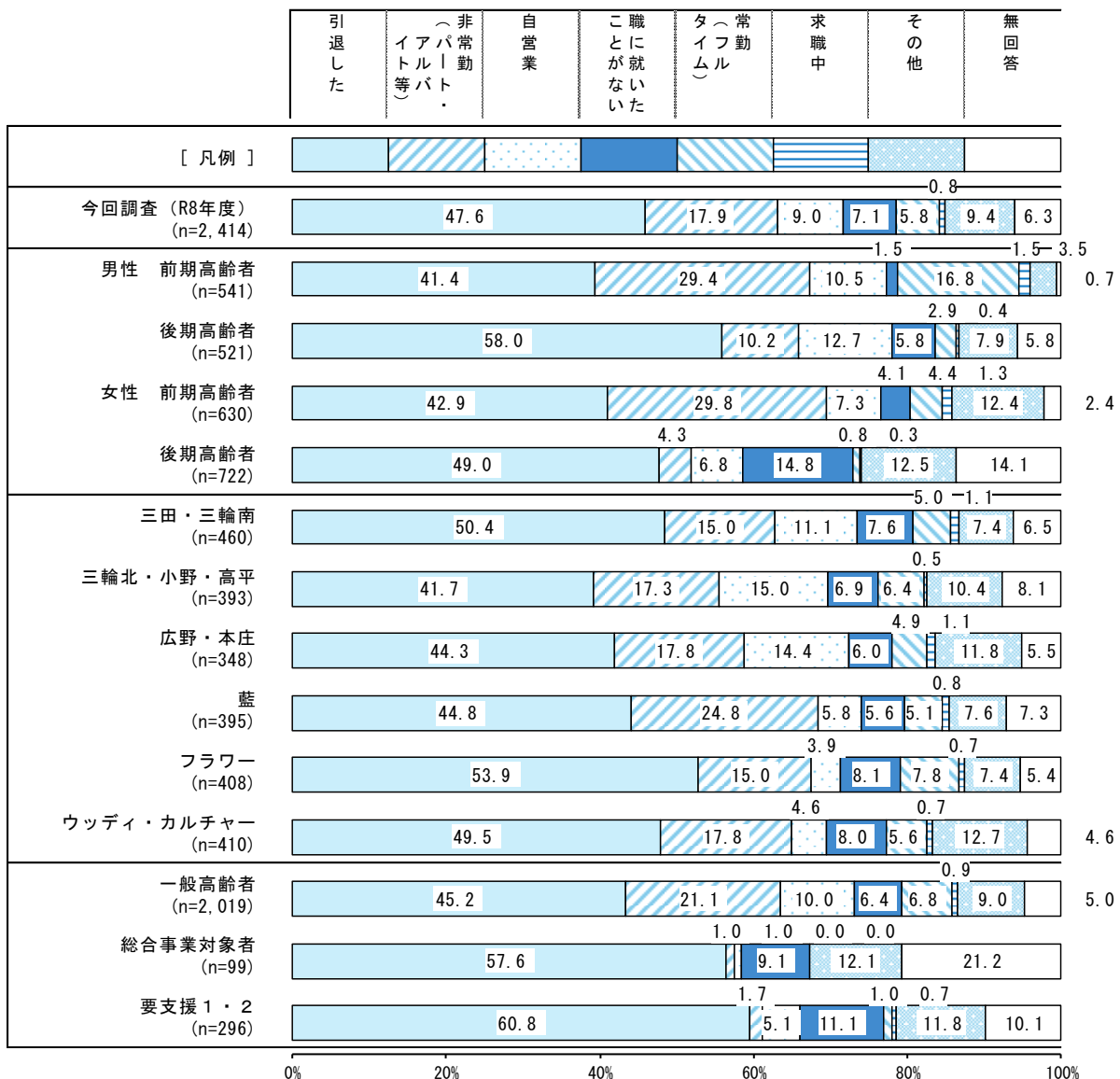
【圏域】

- 三輪北・小野・高平、広野・本庄は「自営業」が他の圏域に比べて多くなっています。藍は「非常勤（パート・アルバイト等）」が他の圏域に比べて多くなっています。フラワーは「引退した」が他の圏域に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

- 総合事業対象者、要支援1・2は「引退した」が一般高齢者に比べて多く、「非常勤（パート・アルバイト等）」が少なくなっています。

【就労状態】



◆たすけあいについて

●算出方法（本編P. 76、77）

4項目それぞれ下記に該当する場合を1点とし、4項目の合計を算出しました。

問番号	判定設問	該当する選択肢
46	あなたの心配事や愚痴を聞いてくれる人。	8. そのような人はいない 以外
47	反対に、あなたが心配事や愚痴を聞いてあげる人。	8. そのような人はいない 以外
48	あなたが病気で数日間寝込んだ時に、看病や世話をしてくれる人。	8. そのような人はいない 以外
49	反対に、看病や世話をしてあげる人。	8. そのような人はいない 以外

【全体】

- たすけあいの合計点について、「4点」が74.4%で最も多く、次いで「3点」が14.8%、「2点」が5.6%となっています。

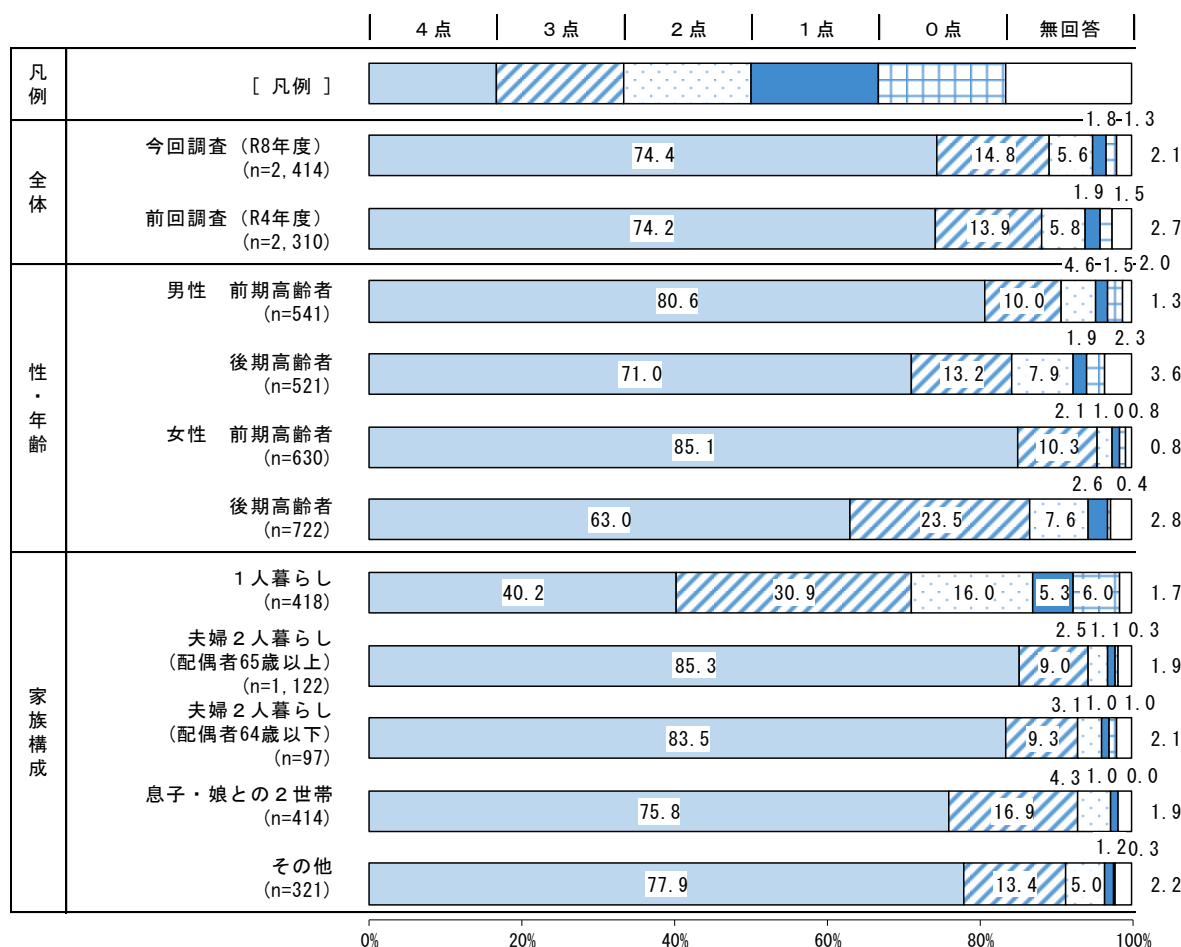
【性・年齢】

- 女性の前期高齢者は「4点」が他の区分に比べて多くなっています。

【家族構成】

- 1人暮らしは「3点」「2点」が他の区分に比べて多くなっています。夫婦2人暮らし（配偶者65歳以上）は「4点」が他の区分に比べて多くなっています。

【たすけあいの合計点】



(2) 家族や友人・知人以外の相談相手

- 問50 家族や友人・知人以外で、何かあったときに相談する相手を教えてください。
(いくつでも) (本編P. 78、79)

【全体】

何かあったときの相談相手について、「そのような人はいない」が 39.9%で最も多く、次いで「医師・歯科医師・看護師」が 25.8%、「地域包括支援センター・市役所」が 17.4%となっています。

【性・年齢】

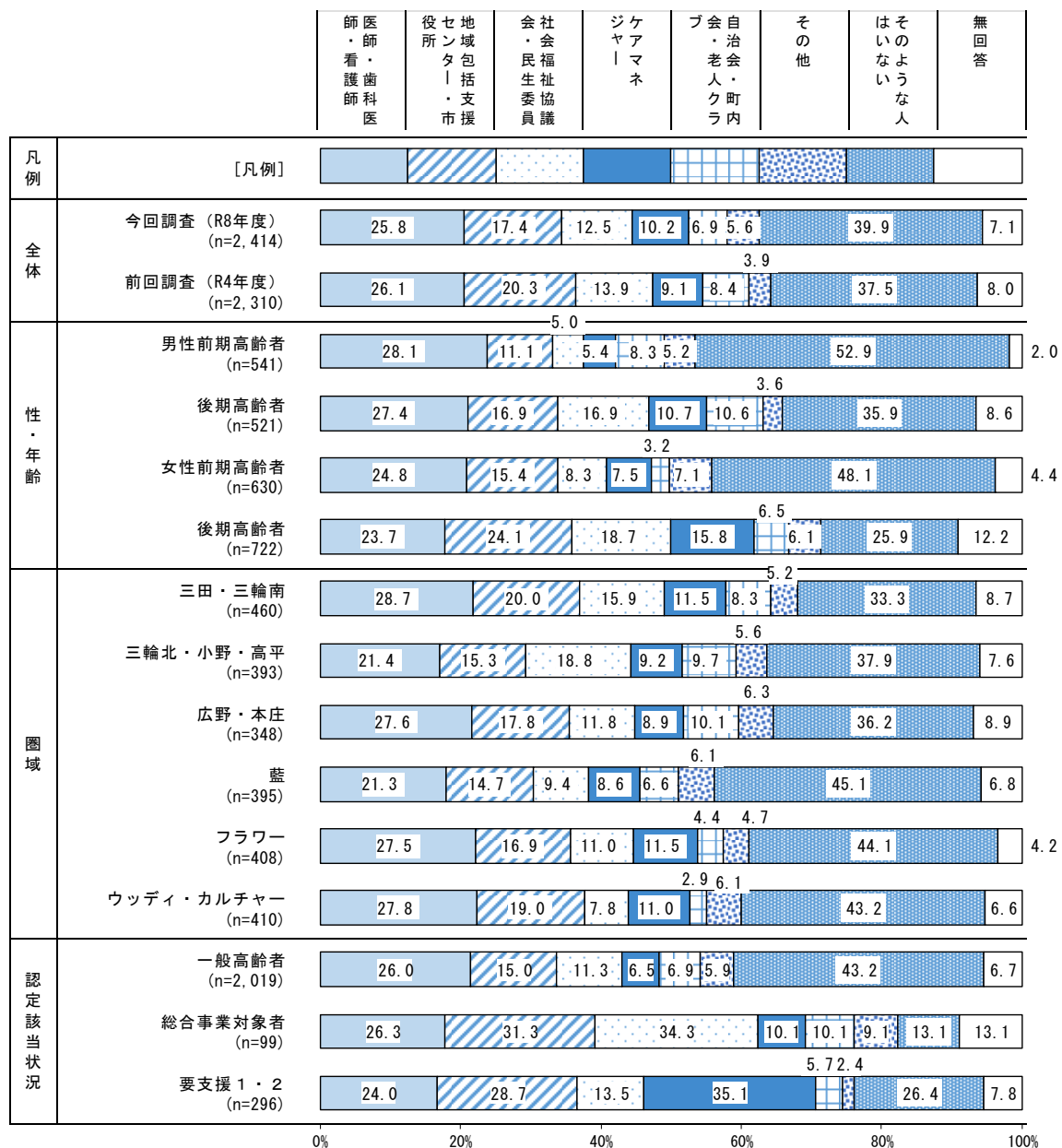
- 男性の前期高齢者は「そのような人はいない」が他の区分に比べて多くなっています。

【圏域】

- 三輪北・小野・高平は「社会福祉協議会・民生委員」が他の圏域に比べて多くなっています。ウッディ・カルチャーは「自治会・町内会・老人クラブ」が他の圏域に比べて少なくなっています。

【認定該当状況】

- 総合事業対象者は「社会福祉協議会・民生委員」「地域包括支援センター・市役所」が一般高齢者に比べて多く、「そのような人はいない」が少なくなっています。要支援1・2は「ケアマネジャー」が一般高齢者に比べて多くなっています。

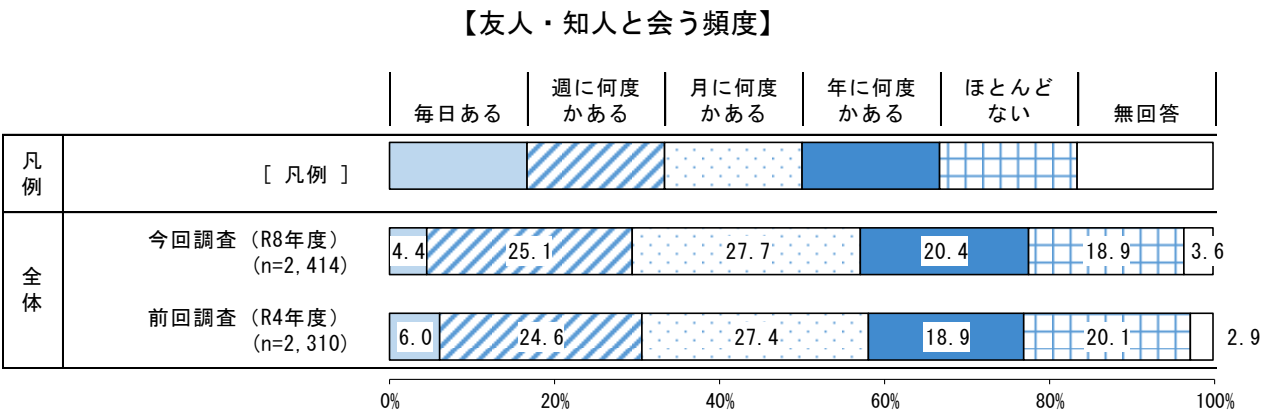


(3) 友人・知人との関係性

●問51 友人・知人と会う頻度はどれくらいですか。（1つだけ）（本編P.80）

【全体】

○ 友人・知人と会う頻度について、「月に何度かある」が27.7%で最も多く、次いで「週に何度かある」が25.1%、「年に何度かある」が20.4%となっています。



認知症の状況

- 問61 認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいますか。(1つだけ)(本編P. 94)

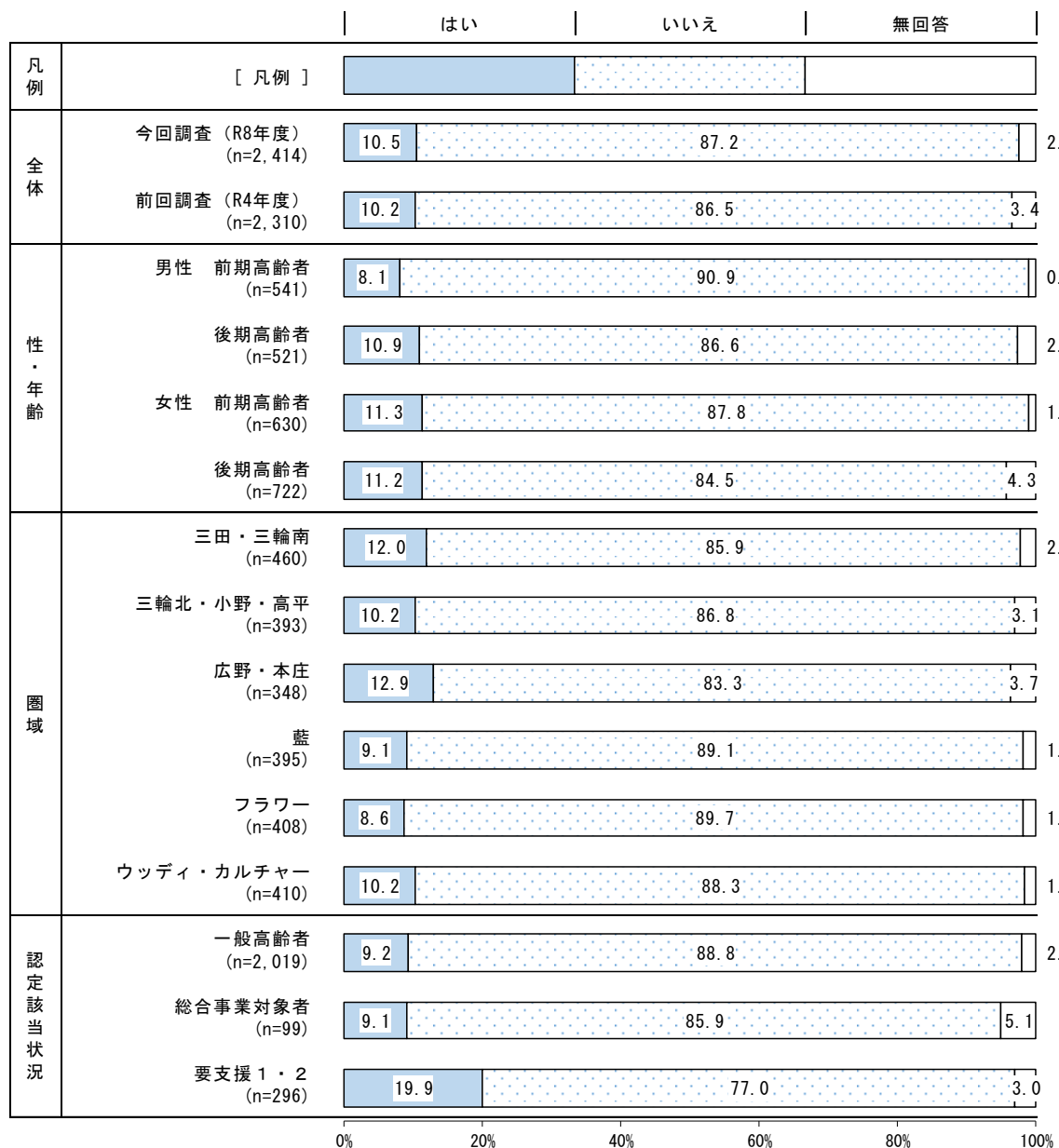
【全体】

- 自身や家族の認知症の症状有無について、「はい」が10.5%、「いいえ」が87.2%となっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2は「はい」が総合事業対象者に比べて多くなっています。

【自身や家族の認知症の症状有無】



(2) 認知症に関する相談窓口の認知度

●問62 認知症に関する相談窓口を知っていますか。(1つだけ)(本編P.95)

【全体】

- 認知症に関する相談窓口の認知度について、「はい」が35.5%、「いいえ」が61.5%となっています。

【性・年齢】

- 男性の前期高齢者は「いいえ」が他の区分に比べて多くなっています。

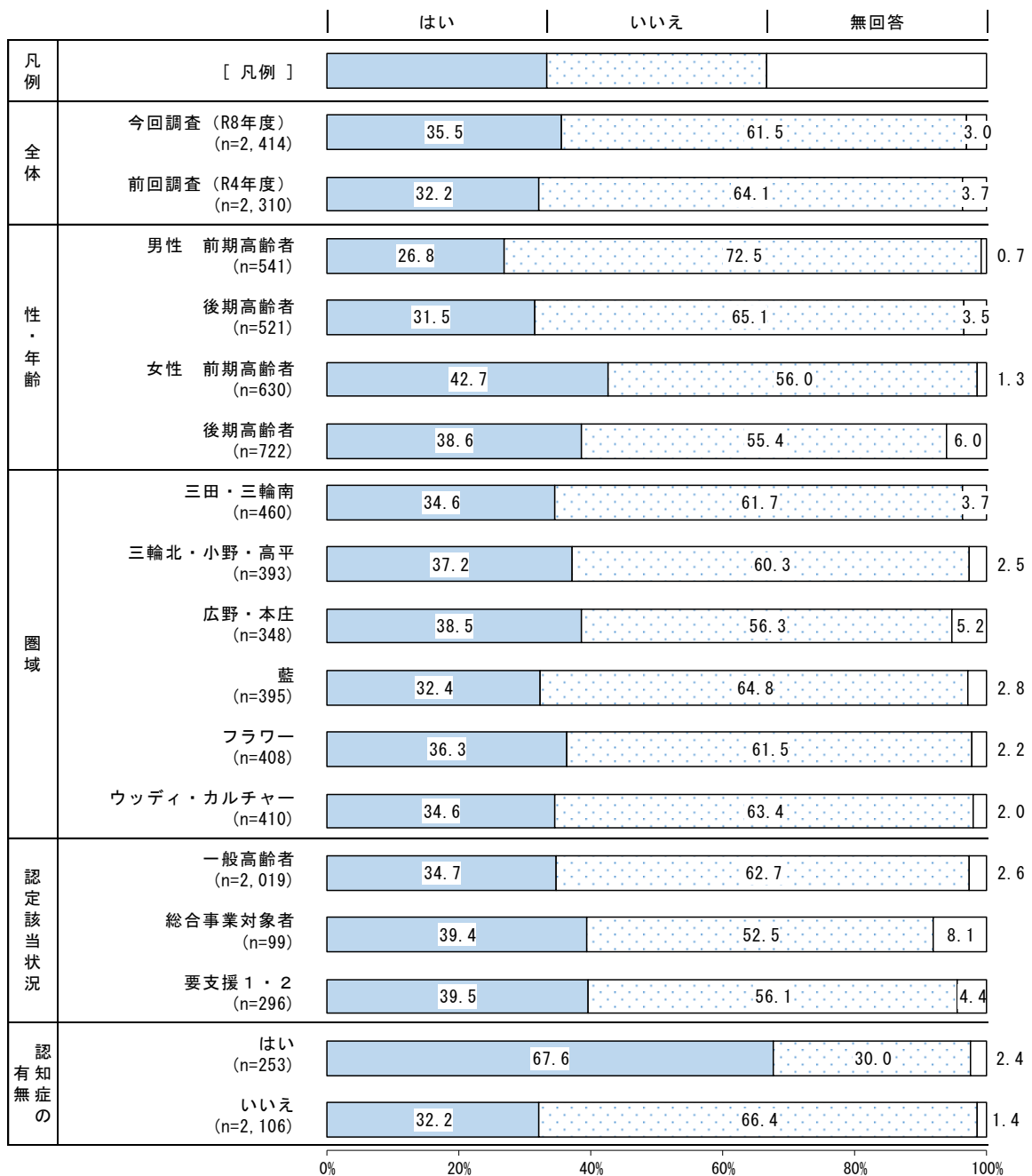
【認定該当状況】

- 総合事業対象者は「いいえ」が一般高齢者に比べて少なくなっています。

【認知症の有無別】

- はい(本人または家族に認知症あり)は「はい」が「いいえ」(本人または家族に認知症なし)より多くなっています。

【認知症に関する相談窓口の認知度】



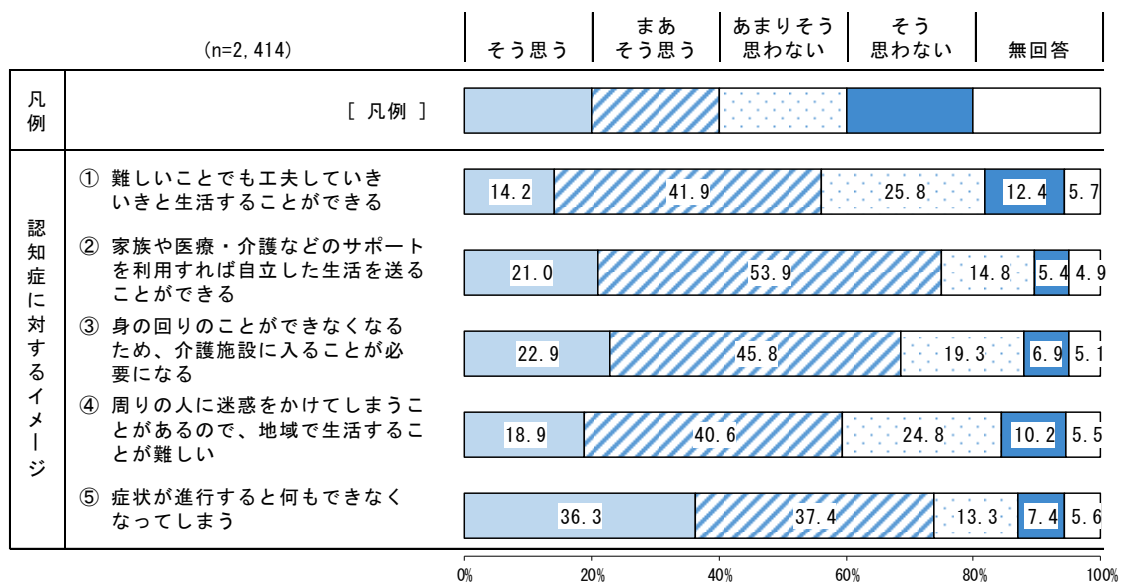
(3) 認知症への理解

- 問63 あなたの認知症に対するイメージは、次のうちどれですか。(①～⑤それぞれ1つ)
(本編P. 96)

【全体】

- 認知症に対するイメージについて、「そう思う」「まあそう思う」を合計した“そう思う方”の割合は、「② 家族や医療・介護などのサポートを利用すれば自立した生活を送ることができる」が74.9%で最も多く、次いで「⑤ 症状が進行すると何もできなくなってしまう」が73.7%、「③ 身の回りのことができなくなるため、介護施設に入ることが必要になる」が68.7%となっています。

【認知症に対するイメージ】



- 問65 あなたは、今までに認知症の方と接した経験がありますか。(いくつでも) (本編 P. 105)

【全体】

- 認知症の方と接した経験について、「家族や親戚に認知症の方がいた (いる)」が 43.2%で最も多く、次いで「経験はない」が 37.4%、「友人、知人や近隣に認知症の方がいた (いる)」が 19.9%となっています。

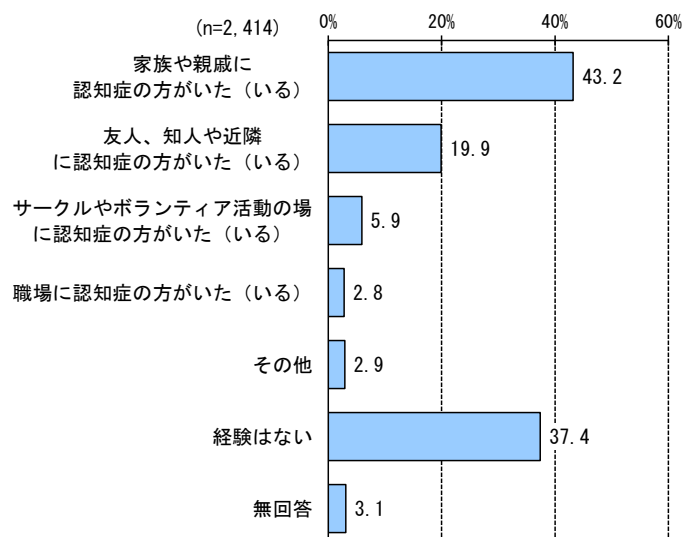
【性・年齢】

- 女性の前期高齢者は「家族や親戚に認知症の方がいた (いる)」が他の区分に比べて多くなっています。

【圏域】

- 三輪北・小野・高平は「友人、知人や近隣に認知症の方がいた (いる)」が他の圏域に比べて多くなっています。

【認知症の方と接した経験】



単位：%

単位：％

		母数	認知症の方と接した経験						
			家族や親戚に認知症の方がいた（いる）	友人、知人や近隣に認知症の方がいた（いる）	サークルやボランティア活動の場に認知症の方がいた（いる）	職場に認知症の方がいた（いる）	その他	経験はない	無回答
全体		2,414	43.2	19.9	5.9	2.8	2.9	37.4	3.1
性・年齢	男性 前期高齢者	541	47.7	11.6	2.0	3.1	1.7	40.9	0.6
	後期高齢者	521	35.9	20.3	5.6	1.7	2.5	40.9	5.2
	女性 前期高齢者	630	△ 54.6	21.0	5.6	5.1	4.6	31.3	0.6
	後期高齢者	722	35.3	24.9	9.3	1.4	2.8	37.7	5.8
圏域	三田・三輪南	460	43.9	22.4	5.9	2.2	3.3	35.2	3.7
	三輪北・小野・高平	393	43.0	28.8	5.6	4.3	2.3	32.8	4.1
	広野・本庄	348	42.8	20.7	4.0	3.2	2.6	34.5	5.7
	藍	395	39.2	16.7	5.3	4.1	2.8	42.3	2.5
	フラワー	408	45.1	17.2	6.4	2.2	3.4	39.0	2.2
	ウッディ・カルチャー	410	45.1	13.9	7.8	1.2	3.2	40.5	1.0
当認定状況	一般高齢者	2,019	45.3	20.3	5.2	3.3	2.9	36.2	2.7
	総合事業対象者	99	▼ 30.3	28.3	12.1	—	5.1	37.4	11.1
	要支援１・２	296	33.8	14.9	8.4	0.3	2.7	45.6	3.4

(4) 認知症になった場合の生活場所

- 問67 あなたは、認知症になった場合、どこで生活したいですか。(1つだけ) (本編 P. 108、109)

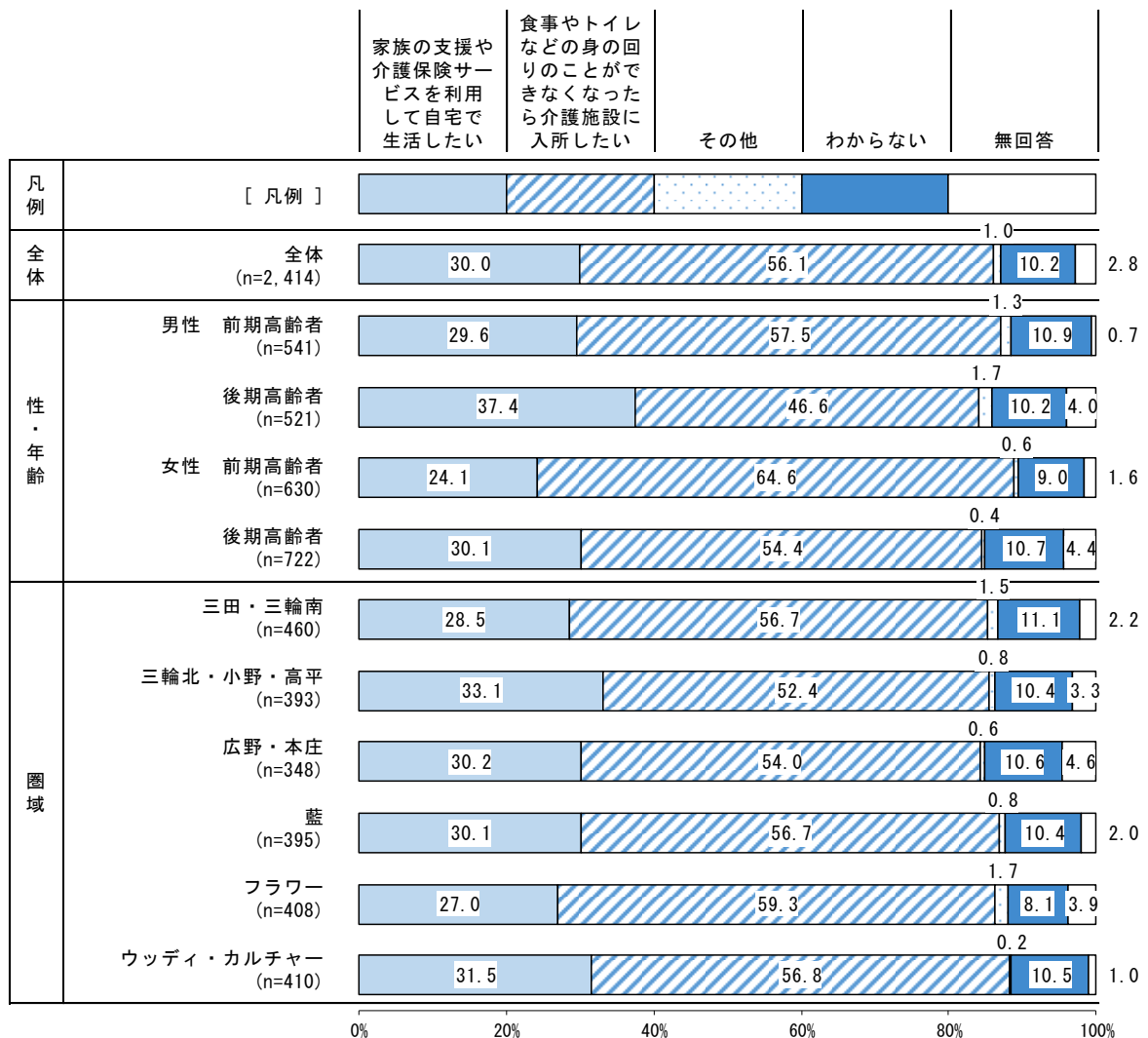
【全体】

- 認知症になった場合の生活場所について、「食事やトイレなどの身の回りのことができなくなったら介護施設に入所したい」が 56.1%で最も多く、次いで「家族の支援や介護保険サービスを利用して自宅で生活したい」が 30.0%、「わからない」が 10.2%となっています。

【性・年齢】

- 男性の後期高齢者は「家族の支援や介護保険サービスを利用して自宅で生活したい」が他の区分に比べて多くなっています。女性の前期高齢者は「食事やトイレなどの身の回りのことができなくなったら介護施設に入所したい」が他の区分に比べて多くなっています。

【認知症になった場合の生活場所】



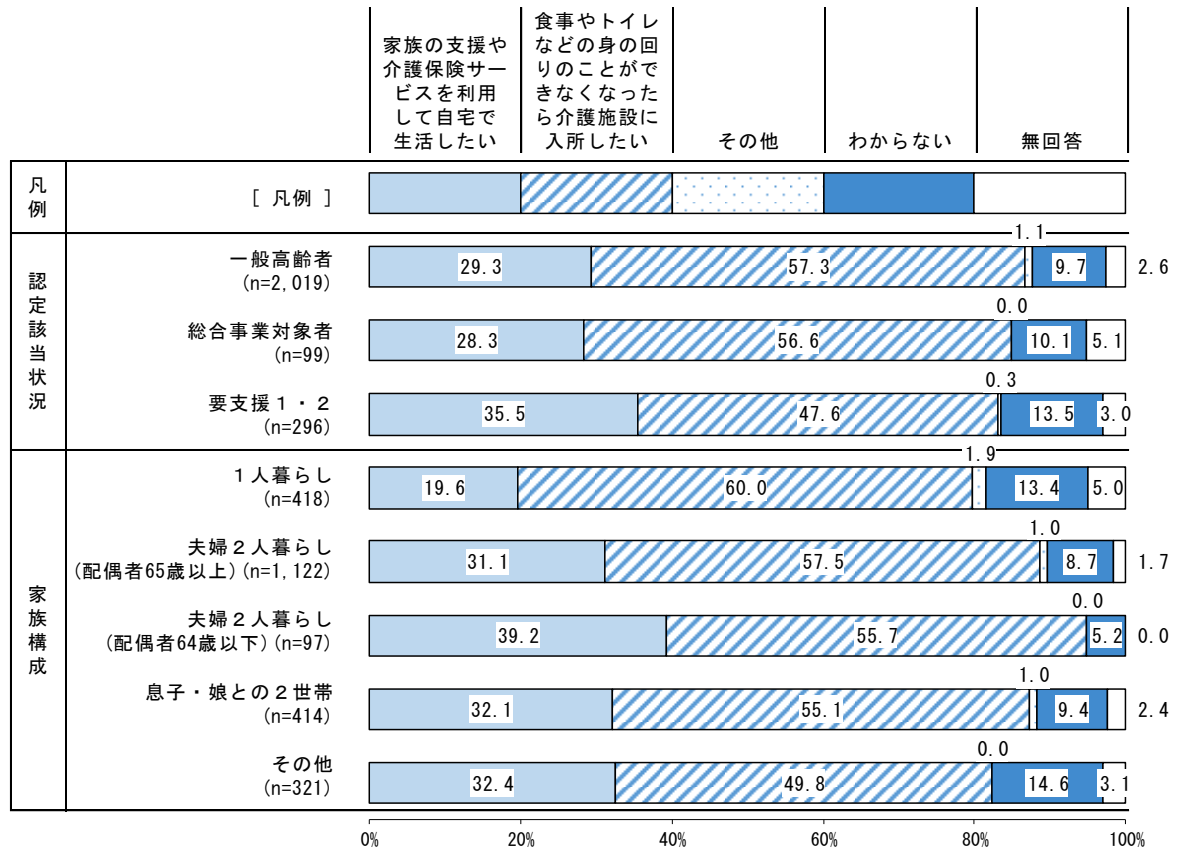
【認定該当状況】

- 要支援１・２は「家族の支援や介護保険サービスを利用して自宅で生活したい」が総合事業対象者に比べて多くなっています。

【家族構成】

- 夫婦２人暮らし（配偶者 64 歳以下）は「家族の支援や介護保険サービスを利用して自宅で生活したい」が他の区分に比べて多くなっています。

【認知症になった場合の生活場所】



地域包括支援センター・成年後見制度の認知・利用状況

●問70 地域包括支援センターが市内には6か所ありますが、このようなセンターを知っていますか。また利用したことがありますか。(1つだけ)(本編P.112)

【全体】

- 地域包括支援センターの認知・利用状況について、「知っているが、利用したことはない」が40.8%で最も多く、次いで「知らないし、利用したこともない」が32.0%、「利用している(利用したことがある)」が23.1%となっています。「利用している(利用したことがある)」「知っているが、利用したことはない」を合わせた“知っている方”は63.9%となっています。

【性・年齢】

- 男性の前期高齢者は「知らないし、利用したこともない」が他の区分に比べて多くなっています。

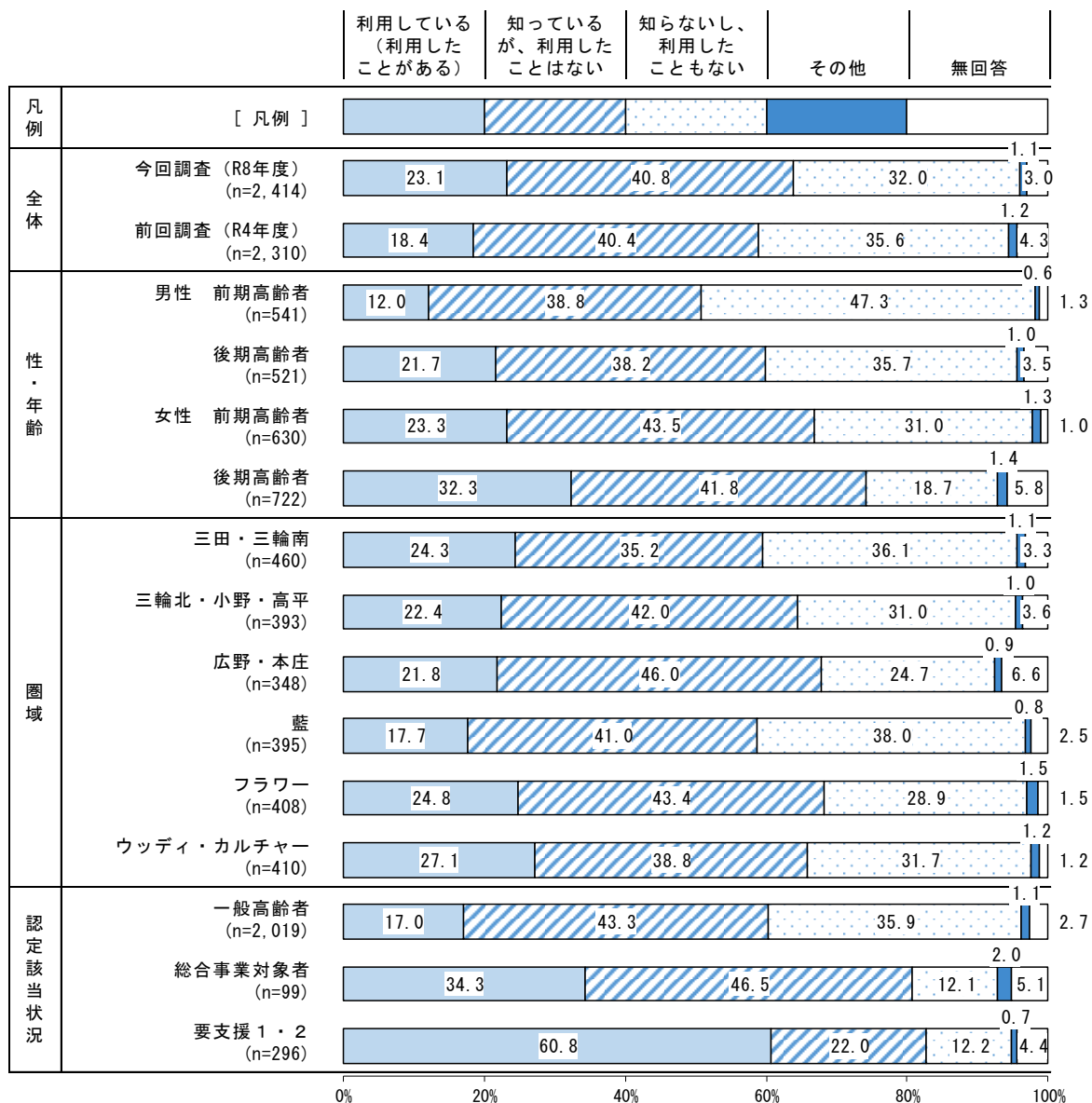
【圏域】

- 広野・本庄は「知っているが、利用したことはない」が他の圏域に比べて多くなっています。藍は「知らないし、利用したこともない」が他の圏域に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2は「利用している(利用したことがある)」が一般高齢者に比べて多くなっています。

【地域包括支援センターの認知・利用状況】



- 問71 あなたは、成年後見制度を知っていますか。また利用したことがありますか。
(1つだけ) (本編P.113)

【全体】

- 成年後見制度の認知・利用状況について、「知っているが、利用したくない」が50.0%で最も多く、次いで「知らないし、利用したくない」が19.9%、「知っているし、利用したい」が14.0%となっています。「利用したことがある（利用している）」「知っているし、利用したい」「知っているが、利用したくない」を合わせた“知っている方”は65.5%となっています。

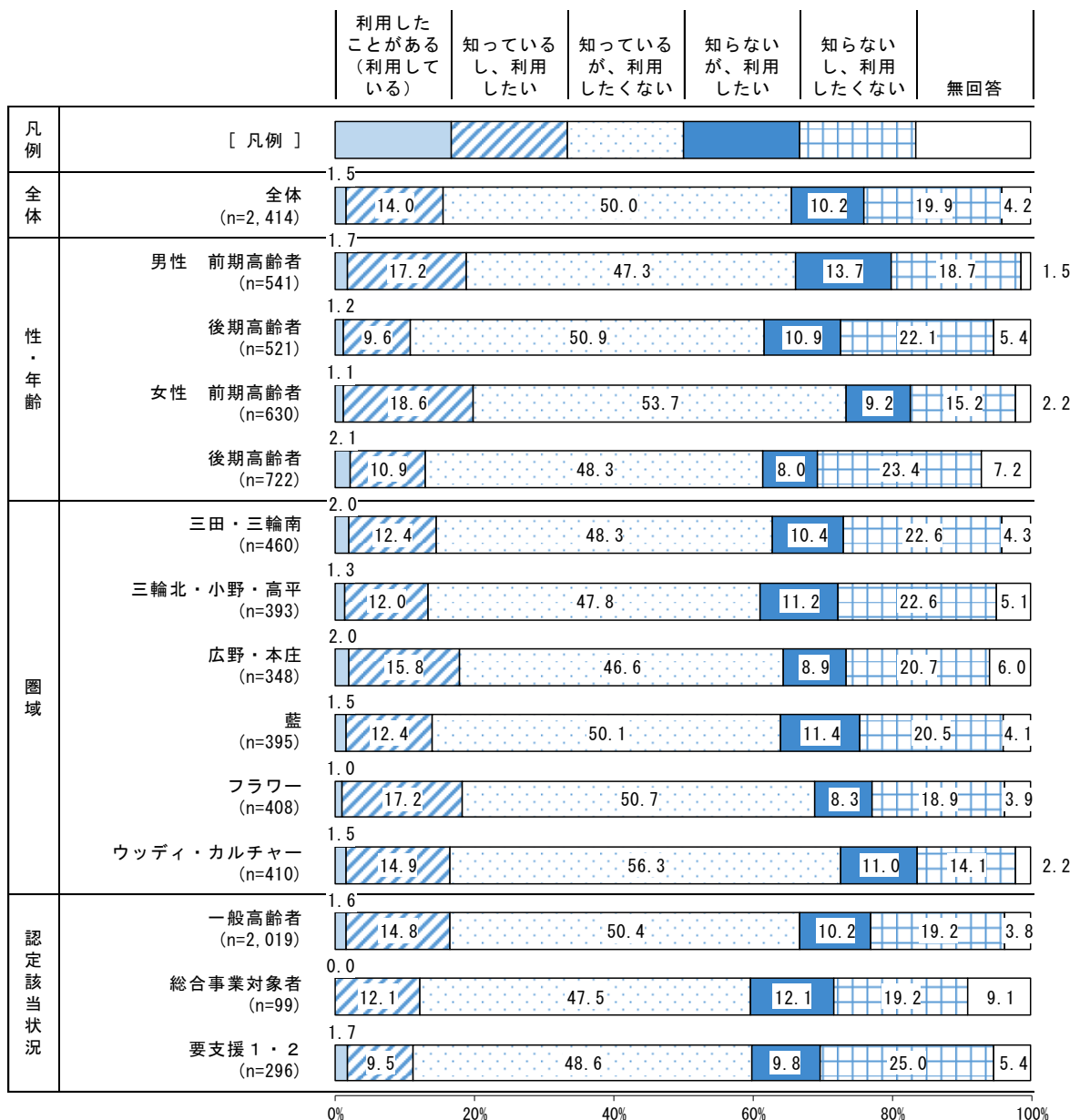
【圏域】

- ウッディ・カルチャーは「知っているが、利用したくない」が他の圏域に比べて多くなっています。

【認定該当状況】

- 要支援1・2は「知らないし、利用したくない」が他の区分に比べて多くなっています。

【成年後見制度の認知・利用状況】



困っていることや不安なこと

●問72 現在困っていることや、不安なことはありますか。(いくつでも) (本編P.114)

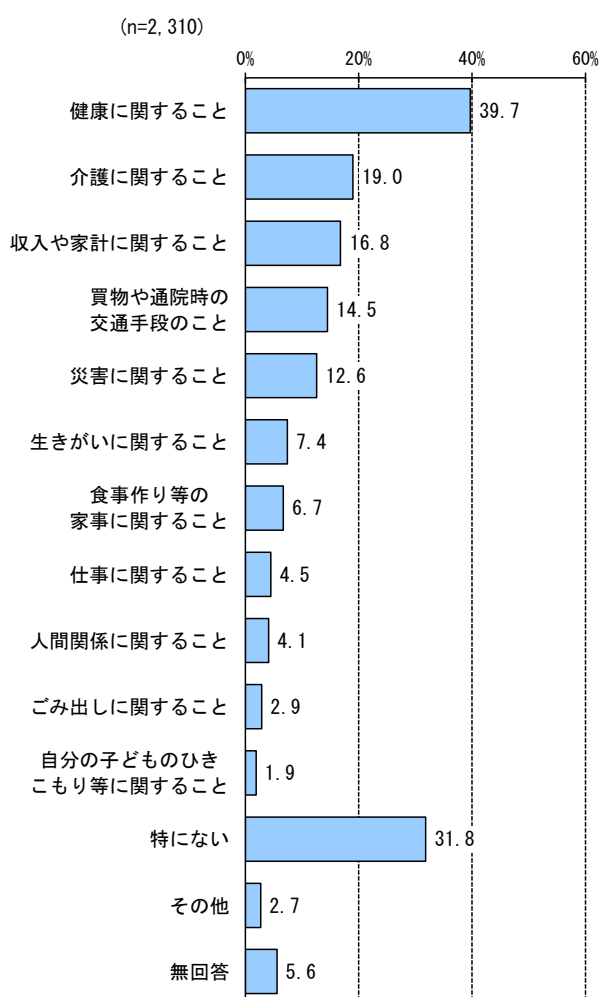
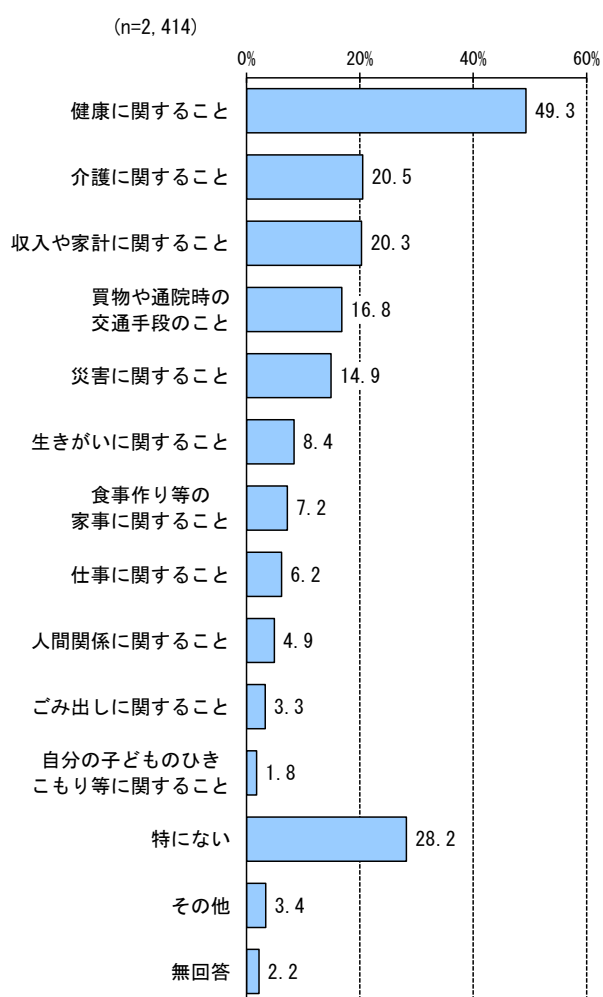
【全体】

- 困っていることや不安なことについて、「健康に関すること」が 49.3%で最も多く、次いで「特にない」が 28.2%、「介護に関すること」が 20.5%となっています。
- 前回調査と比べて、「健康に関すること」が 9.6 ポイント多くなっています。

【困っていることや不安なこと】

[今回調査 (R8 年度)]

[前回調査 (R4 年度)]



介護が必要になった時の介護サービスの利用と住まい

- 問73 介護が必要になった時の介護サービスの利用と住まいについて、どのようにお考えですか。最も近いものをお選びください。（1つだけ）（本編P.116）

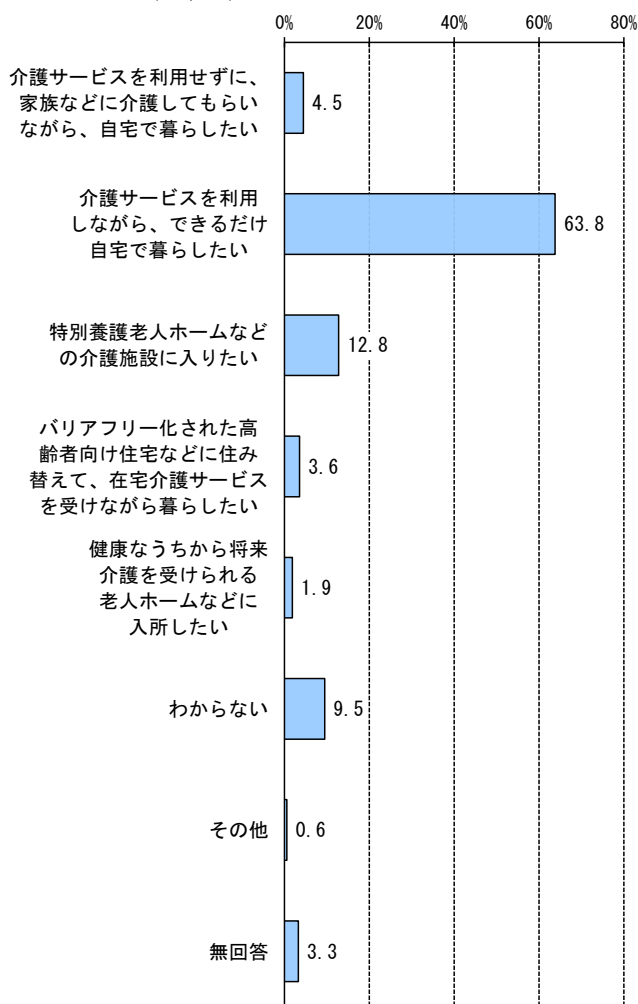
【全体】

- 介護が必要になった時の介護サービスの利用と住まいについて、「介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が 63.8%で最も多く、次いで「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が 12.8%、「わからない」が 9.5%となっています。「介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい」「介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」を合わせた“自宅で暮らしたい方”は 68.3%となっています。

【介護が必要になった時の介護サービスの利用と住まい】

〔今回調査（R8 年度）〕

(n=2,414)



〔前回調査（R4 年度）〕

(n=2,310)

